

専念寺通信

専念寺通信

七月号 (NO. 107)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

梅雨もなかばとなり、雨が降ったりやんだりの季節がはじまりました。気温差のある日々ですが、みなさま、お変わりなくお過ごしですか。



☆盆会

今年も夏のお盆がやって参ります。13日がお盆の入りの日です。13日の夕方、迎え火をたいて、還って来る先祖の人たちの魂をむかえます。精霊棚(しょうりょうだな)を作って、そこに夏の野菜、ほおづき、素麺などをお供えし、15日までのあいだ、戻ってきてくださった人たちと過ごします。盂蘭盆会(うらぼんえ)という言葉は、ウランバナという梵語に文字をあてた言葉で、その意味は逆さに倒して吊るす、です。亡くなった身内がそのようなつらい状態になっていませんようにと、彼岸にいる人たちのために、そして、こちら側にいる私たちのために盆会は行なわれます。ほとんどの地方では8月に盆会が営まれますが、東京だけは旧暦の7月です。

専念寺では、新盆を迎えられた檀家さまのために「新盆合同供養」をとりおこないます。今年は7月12日、日曜日、午前11時よりのご法要となります。新盆をむかえられる檀家さまには、お電話でご案内を致しました。ご参加をお待ち申し上げます。

☆専念寺の花

専念寺の境内にあるささやかな花を、毎日、さがしては『通信』用に

写しています。6月号ではあじさいを掲載いたしましたが、このあじさいはまだまだ一雨ごとに色を深めて、咲き続けています。墓地の片隅で、けなげに見事な色を見せているあじさいの花を、いま一度掲載させていただきます。さて、右の白い花ですが、固い蕾をひねるようにじょじょにひらいてゆき、朝には蕾だったはずが夕刻にはご覧のように開きました。直径7センチくらいの清楚なたたずまいです。お茶の花のようです。下の写真は本堂の裏です。ここに梅の老木があり、2月には白い美しい花を咲かせます。ちょうど墓地の突き当たりの、お地蔵さまのあたりから花をご覧になることができます。ここに梅の実がいくつか落ちていました。地にはどくだみの花が咲いています。根をはり、きらわれるどくだみですが一輪一輪をよく見ると、可憐な丸い花びらです。最後に、中庭にある桑の木が真っ赤な桑の実をつけましたので、ご紹介します。この実を取りにさまざまなお鳥がやって来ます。ちいちいと鳴き、おおきな葉を揺らして、口に赤い実をくわえてさっと飛び立ちます。その様子を見て、専念寺の猫2匹は固唾を飲んでいました。小鳥を獲ろうというわけです。翼のある生き物は、いつも我が寺の2匹を横目にゆうゆうと飛んで行きます。都会の小さな町の寺ではありますが、季節の出来事を時々、皆さまにお伝えして、ほっとしていただければさいわいです。平成21年7月1日 大黒

